

「第2回 宮城県総合計画審議会」会議録

日 時：平成18年8月25日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで

場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

出席委員：小金澤委員，新妻委員，畑山委員，福嶋委員，紅邑委員，星宮委員，柳井委員，梅原委員
〔代理出席〕，天野委員，楳原委員，小山委員，熊谷委員，佐々木委員，佐藤（豊）委員，
佐藤（博）委員，龍田委員，羽田委員，幕田委員〔代理出席〕，丸森委員，師委員

※計20名出席（欠席委員：牛渡委員，内田委員，木村（春）委員，木村（稔）委員）

宮 城 県：知事，教育委員会教育長，総務部長，企画部長，環境生活部長，土木部長，病院局長，保
健福祉部次長，産業経済部次長，企業局次長兼公営事業課長，警察本部警務部警務課企画
官

事 務 局：企画部次長，企画部政策課長，政策課長補佐，政策課政策企画リーダー，政策課政策企画
サブリーダー

1 開 会（司会：宮城県企画部政策課 課長補佐）

※ 司会より，本日の出席者数（計20名）が報告されるとともに，総合計画審議会条例第6条第2項の規定により，本日の会議は有効に成立している旨，報告

※ 第1回審議会においては都合により代理の方に出席いただいていた委員（小山委員，羽田委員）及び本日の代理出席者を司会より一括して紹介

2 あいさつ（村井知事）

本日は，大変お忙しい中，第2回宮城県総合計画審議会に御出席を賜りまして，誠にありがとうございます。

前回，第1回審議会では，私から「（仮称）みやぎの将来ビジョン」の策定について諮問させていただきまして，委員の皆様からは，今後県が重視すべき取組などについて多くの貴重な御意見を賜ったところでございます。

また，5月下旬から7月上旬にかけては，将来ビジョン策定作業の一環といたしまして「みやぎの将来ビジョン県民会議」を開催いたしました。公募による33人の県民の皆様から多くの御意見を頂戴したところでございます。

この間，県民会議でいただいた御意見や有識者からいただいた御意見を踏まえながら，若手中堅職員を中心としたワーキンググループにおきまして，現状分析や課題の整理などを行ったほか，骨子案の策定に向けて部局横断的な検討を行ってまいりました。

本日は，これらの検討結果などを踏まえ，事務局として作成いたしました将来ビジョンの骨子案を御提示申し上げましたので，委員の皆様方の専門的な見地から御議論をいただき，本県をめぐる課題のとらえ方や将来像とその実現のために取り組むべき方向性などについて，忌憚のない御意見を賜ればと思っております。

来月上旬には，先ほど申し上げました県民会議に引き続き，県内3か所でタウンミーティングを開催し，広く県民の方々の御意見をいただくことにしております。私も，時間の許す限り会場にまいりまして，直接，県民の皆様の声をお聞きし，ビジョンの内容やこれからの県政に反映させてまいりたいと考えております。

ビジョンの策定作業は今年度いっぱいということで，大変急ぎ足のスケジュールとなり，皆様にはいろいろと御迷惑をお掛けいたしますが，今後とも，私どもに御指導と御協力を賜りますよ

うお願いを申し上げます、挨拶とさせていただきます。
本日はよろしくお願い申し上げます。

※ 総合計画審議会条例第6条の規定により、ここからの議事進行は会長が行う

3 議事

(1) 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子案について

【星宮会長】

皆様には、お忙しいところ、御出席いただきましてありがとうございます。

それでは、議長を務めさせていただきます。

本日の主な議題は、お手元にお配りしております次第のとおり、「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子案についてでございます。

みやぎの将来ビジョンの策定につきましては、前回6月の審議会において、知事から審議会の意見をいただきたい、との諮問をいただいたところであり、これまで事務局において骨子のたたき台をまとめていただいたところでございます。

本日はこの案をお配りしておりますので、時代の潮流や課題のとらえ方、宮城の将来像や県として考えている取組の方向性などを中心に、皆様から忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

また、ただいまの知事のごあいさつにもありましたように、県では5月下旬から7月上旬にかけて「みやぎの将来ビジョン県民会議」を開催し、公募でお集まりになった県民の方々から宮城の将来像などについてのご意見をいただいたところです。

本日は、この県民会議における意見内容につきましても、併せて事務局から御説明をいただきたいと思っております。

それでは事務局のほうから、御説明をお願いします。

※ 企画部長より、「資料3」に基づき県民会議概要について説明するとともに、「資料1」に基づき、骨子案の内容について説明

【星宮会長】

ただいま御説明をいただきましたけれども、その「(仮称)みやぎの将来ビジョン」の骨子案について審議を行いたいと思っております。

おおよそ1時間程度の予定だと思っておりますが、本日の審議会の持ち方につきましては、先ほど御説明がありましたように、ビジョンとしては、全体構成や県として考えている取組の方向性といった大枠については大筋を固めて、事務局には中間案の作成に向けた次の作業に入っていただきたいと思っております。

したがって、委員の皆様方には、この案の細かな書きぶりというよりは、むしろビジョン全体についての基本的な方向性や取組を中心に意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、御質問などのある方は御発言をお願いします。挙手をいただければ、事務局のほうでマイクをお持ちしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【新妻委員】

- ・ お送りいただいた資料を見させていただいて、県民がこれを見たらどのように見えるのかなという印象を考えて、ちょっと辛口のコメントをさせていただきたい。
- ・ まず、この冊子を見ますと、宮城という風土が見えない。日本中どこでも言われているあるいは世界でも言われていることがあって、固有名詞を変えるとどこの県にでも使えるようなことがたく

さん書いてある。つまり、地域を踏まえたような具体性や独自性が乏しいのではないだろうかという印象を受けた。

- ・ 次に、一応県庁の中で横断的にやられたという努力は見られるが、やはり縦割りのレポートだという印象がどうしてもある。産業にしても、環境にしても、安全安心にしても、部署を越えたあるいは地域を越えた取組が必要だ。特に、実践を行っている県民の方々から見れば、常に縦割りの弊害というか、毎日困っている状況であるが、それに対して打破していくという意気込みがあまり見えないというか、従来の延長ではないかという疑問を抱きたくなる。
- ・ あと、「現状と課題」と「10年後に目指す姿」という2つのタイプに分けた整理の仕方をしていて、「現状と課題」の部分では“～が必要である”“～が必要とされている”と書いてあって、「目指す姿」のところでは、同じことが実現出来ているとなっており、結局は同じことが書かれている。だから、現状と課題の掘り下げを本当にやっているのか。課題を掘り下げる前に「～が必要」と言っているということは、結論を先に言っていることなので、本当に決めつけではないのだろうか。あとは、必要なことをやっているということは、全て受け身だということであり、創造性が乏しい、あるいは攻めの姿勢が見えないという印象がある。これは全く同じ文章が書いているところと書いていないところがあるので、多分書かれた部署によるのだろうが、それは表現の話だと思う。
- ・ あと、「県の取組」のところでは、またたくさん同じような表現が出てきて、「～について支援をする」、つまりある一定の条件に合ったものについては支援をしますよということがたくさん見られる。これは座っていてある条件を満たせばお金を配りますよという、旧来の県庁のスタンスがそのまま出ているような気がする。そうではない、もうちょっと県庁の人が宮城県の中に出ていって、掘り下げるといふか取り上げるような姿勢、そういった取組を期待したいと思う。
- ・ あと、「～をやる」ということを書いているが、どのようにアプローチするのかということが書いていない。例えば、「がんを治します」ということは、誰でもそれが重要だということは判るが、要はどうやってがんを治すかということが実は重要だ。そこが書いていない。つまり、この問題に対してどのようにアプローチしていくのか、あるいは宮城なりのアプローチというものがあるのかどうか。どのようにしていったらいいのか、あるいは地域依存がすごく強い課題があって、例えば世間が宮城に対して注目している課題だってあるはずだ。その時に、宮城がどうやって見せるのかというアピールが無いと思う。
- ・ あとは個別のことになるが、9ページの3つの輪の図があるが、この3つの輪というのは本来重なるべきものなので、ここは重ねて書いたほうが良いと思う。
- ・ あと、18ページの大学の知的資産の活用というところがあるが、私も大学関係の人間であるが、工学のほうを以前やっており、いろいろなハードウェアやソフトウェアを産業化した経験もある。その時に、大学の知的資産を活用すると何でもできそうな夢が書かれてあるが、実は大学から知的なものを産業化するまでには、「デスバレー（死の谷）」という、乗り越えていかなければならない深い幅広い谷がある。それをどのように乗り越えていくのかということが重要である。だから、大学と連携さえすればうまくいくんだというのはかなり甘いのではないかと。やはり、デスバレーをどう越えるのか、それに対してどのような施策をやるのかを重要視して考えていかなければならないのではないかと。思う。
- ・ あと、産業振興のところでは、地元学的視点といったものが重要。国際競争力を高めるとか付加価値を付けるということは、世界中どこでも同じ事である。何が大事かということ、宮城で何が出来るのか、宮城の宝がどこにあって、どういうところが宝で、それをどう生かすのかということがポイントになってくるはずだ。だから、地元の宝というものを徹底的に洗い出すという姿勢が重要ではないかと思う。
- ・ それから、産業、観光、環境、安全安心についてだが、広域でやるとかあるいは流域でやるという視野が大変重要だと思うが、これは正に県がやるべきことではないのか。都市が都市だけで存在するわけではなく、山間部も山間部だけで存在するわけでもない、広域にお互いにインタラクション（相互作用）しながら、海・山・森の連携という話もあるが、そういう視点というものが重要であり、それが県の役割ではないかと思う。
- ・ それから、環境の件について、人と自然との関わりということだが、自然と社会というのは離れ

て存在しているのではなくて、自然というのは社会との関わり、古い時代から人間と自然とが関わって今の自然があるわけだから、社会と離れて自然環境があるわけではないというのが世間の常識になっているので、その辺は踏まえていただきたい。あとは環境についても部署を越えた総合的な取組というものが非常に重要だという認識になっているので、その辺も是非よろしくお願ひしたい。

【星宮会長】

- ありがとうございます。大分辛口というふうに御本人もおっしゃっていたが、大變的確な御指摘だったと思う。一番始めの縦割りの問題というのは、全体に関わることだと思うし、下打ち合わせの段階でも私の方から県の方に申し上げていた。個々のことで話をすると大變だが、非常にいい御指摘だったと思う。

【柳井委員】

- 全体的な感想も含めて意見を述べさせていただきたい。全部で5点ほどある。
- まず第1点目だが、宮城県総合計画という性格上のこともあるかと思うが、実際に幅広く記述がなされているということである。新しく大局的なビジョンを考えているわけなので、もう少し踏み込んだ特徴というものをいって如何か。例えば、他の県の場合だと、岡山県であればノーベル賞を受賞するために戦略化していく、また滋賀県であればキーインダストリーというものははっきりと明確に打ち出している、あるいは三重県の場合だと「クリスタルバレー構想」ということで、非常に判りやすいキャッチフレーズで施策を実行している。いずれも何をやるのかということが見えているような戦略のたて方をやっている。そういうことが必要ではないかと感じている。例えば、本県の自動車産業を育成策についてだが、それはそれで進めていけばいいと思うが、自動車産業は他の地域でもみんな頑張っているし、その時に勝てるのかといえば、そこは競争ということになるわけだから、自動車産業のどの部分が強いのかということも訴えていくという視点が重要ではないか。実際に生産規模から見ても、岩手県の北上地域にある関東自動車でも25万台程度なので、マーケットとしては非常に小さい。だから、そこで自動車産業をキーインダストリーに据えていいのかという問題も含めて、もう少し検討されてみては如何か。
- それから2点目だが、知事の今回の基本計画の一番の力点は「富県構想」ということで、すなわち豊かな県を目指すということだと思う。従って、中間報告の構成などを見てみると、一番最初に経済産業基盤というものを持ってきて、それに関連する形で安心の地域社会あるいは安全県土の創造ということをやられているので、構成自体はいいと思う。ただ、富県戦略というのは、裏を返せば競争戦略ということになるので、他地域より如何に勝ち上がっていくかというシナリオがあればいいと思う。例えば、電機産業や自動車産業なら、どういったシナリオで両産業が育成・強化され他地域との競争に打ち勝っていくかというのが見えるといいと思う。他の計画との整合性もあるが、できるだけその辺の意欲を滲ませるような表現を考えられては如何か。
- 3番目であるが、経済基盤の確立ということで、行政ということも大事だが、実際にこの計画を練っていく段階で、是非とも実業界というか工業界も含めてタイアップしていただきたい。例えば、10年後に県の工業というものがどのような目標に到達しているのかというベンチマークを示していく作業をタイアップしてやっていく必要があるのではないか。これは「県」だけの問題ではなくて、むしろ「産」のほうの力に関わってくる問題だと思う。両者は車の両輪の関係になるので、実行可能な報告書のためにもお願いしておきたい。
- 4点目は、国際物流の記述を読んでいて、私はもうちょっと考えることがあるのではないかと考えている。例えば、2004年を境にして、アメリカとの貿易を、中国に香港を加えたところとの貿易が上回った。そういう意味では、貿易量だけで言うと完全にアジアの時代になっている。また、韓国では釜山港あるいは光陽港の整備、上海でも洋山深水港という大きな港を整備していて、日本の主要母港を2つ合わせたくらい、あるいはそれ以上の取扱量の港を2020年くらいまでに完成させてくる。そうすると小口多品輸送というものが活発化してくるので、今後ますます生産・流通などをトータルに管理する「サプライチェーンマネジメント」手法が重要になってくる。つまり、そのためのインフラ基盤の整備と管理技術が重要になってくる。本県が掲げる富県構想から鑑みて、物流の重要性の強調と、生産と物流の連携という視点をいれていただきたい。特に、高付加価値製品については、航空輸送が非常に重要になってくるので、こちらのほうでも物流は重要になってくる。

- それから5点目になるが、私は仙台に来てから2年目になるが、多賀城市や石巻市などまちづくりに関しての要望を聞く機会がある。おそらく富県戦略構想から言えば、報告書の最初の項目に入るのがふさわしいと思うが、実際には、41ページのところに「コンパクトシティ」というところに記述が見られるだけである。この記述を読むと、現状認識として中心市街地の空洞化に歯止めがかからないと記載されている。10年後にはそれが逆転して、コミュニティと中心市街地の魅力ある商店街が形成されるということになっている。そのための支援体制として、県の取組は、人を育成支援していくということになっている。しかしこれだけだろうか？せめて、国あるいは地域の商店街や商工会議所、商工会との連携あるいはそれに対する支援体制、などの点をもう少し付け加えていただきたい。理由は簡単で、人口10万人以下のところは商店街の解体というのはもう避けられない状態と言われている。宮城県の場合は、仙台市を省くとほとんどが10万人以下の規模になってしまうので、全ての地域において中心商店街は解体期に入ってくるという認識を持った方がいいと思っている。従って、この点についてももう少し県としての様々な支援策を考えていただきたいというのが感想である。

【星宮会長】

- ありがとうございます。大事な御指摘が続いておりますが、他にいかがでしょうか。

【梅原委員（佐藤角田市長代理）】

- 私は、市長会長の梅原さんの代理なので、大層なことは申し上げにくいと思っている。市長会としては、このビジョンを関係市に配布して、各市長さん方から意見を頂戴していたが、2つほど意見が出ています。
- 1つは大崎市のほうから出ていて、先ほど説明があったが、このビジョンの中に、県内の圏域別の発展計画が記載されていないので、これを記載したらいいのではないかと提案であった。ところが、御説明の中身を伺っていると、市町村で策定した計画を県の計画に入れ込んでいくというようなことだったので、これはいいのかなと思っていた。さらに私見を加えると、地域あつての県政なので、例えば角田市がよかれと思ってやっていることは、それで県政になるのではないかと。県政が何をそれに加えるかというのはまた御相談もらえればいいのであって、基本的にはやはり市町村との連携、県民と協働の県政の展開、こういうことでもいいのではないかと。すべてここで一元的に原理・理論を確定して、これでやるということもいかがなものか。やはり県民、市町村にはそれなりの考えがあるので、それをよく聞いて、それがすなわち県政の展開になるということにしてみたいのではないかと考えている。第3章第1節「県政運営の理念」というところに項目がたくさんあるが、私はここに県民と協働の県政の展開ということのほうがいいのかなと思っている。全てを県で作って、そのお膳立ての中でいくというような考えではなくて、大方は市町村や県民の発想を尊重して、協働の力でやっていくというほうが、私は力強く進むのではないかなと思ったわけである。
- それから、これは仙台市の要望である。個別ビジョン24の「コンパクトでにぎわいのあるまちづくりと地域生活の充実」というのがあるが、これは平成18年5月に公布された改正都市計画法の趣旨を踏まえ、中心市街地の再生と地域商業の振興の実現を目指し、県において広域的な観点による大規模商業施設等の適正立地の誘導を図るため、県内各地における暮らしやすいコンパクトなまちづくりに向けた動きを支援・調整する、都市計画法に基づく広域調整機能の導入について言及する必要があるのではないかと考えている。これについては、最近市長会が行われ、その際に仙台市から提出されたものであるが、やはり1市町村だけでは調整できない広域的な問題になっているので、県の調整が是非とも必要だということをお願いするものである。
- それから最後に、角田市から提出した提言が入っているわけだが、これは先ほど大崎市から提出されていたものに私見を加えたものと同じで、やはり県民と協働の県土づくりということ、どこまでもこのビジョンを推進していくために項目を設けて、県の理念のようなものをまとめていく。それは県民の参画をお願いすることではなくて、もっとさらに進んで、あなた自身で計画を立てたらどうか、応援するよ、同じレベルでやるというような考え方である。この長期総合計画というのはそういうものになってほしいと、県の理念を出すというよりも、県民の発想・努力を最大限発揮できるような仕組みを立ち上げたほうがいいのではないかと。また、いろいろな事業の促進については、補助金制度もあるが、これを縦割りではなくて、包括的な、市町村長を信じ

てやってくれという形のほうが、私どもとしてはやりがいがある。

- それから、これは師先生がいらっしゃる中でお許しいただきたいことだが、第4章ビジョン14の「いのち輝く地域医療の充実」というところだが、これは県内各地に中核病院を確立して、病診連携を進めていくという非常にいい方向である。しかし、私はさらに県の指導力と力を発揮するために、大学の先生もおっしゃったが、目に見えるような形のを打ち出してほしい。というのは、難病でお金がかかるというのは、最終的には全てがんに関わっている。普通の病気はみんな治る。がんだけが手に負えない。兵庫県の知事さんは、今から10年前に500億円をだして、明石に「炭素重粒子線医療センター」を作ったと聞いている。知事さんに500億円という額を要求するつもりはないが、東北に1箇所だけあれば間に合うわけだから、現在のがんセンターの周辺もまだ10ヘクタールくらいは確保できると思うので、いわゆる粒子線を取り出すような施設をあそこに作って、これでやる、あとは病診連携でそれぞれやる、こういう形を出してもらおうと医療のほうも県政は取り組むなという姿勢が出てくると思う。

【企画部長】

- 1点だけ補足させていただきたい。先ほど私が説明した中で、今、角田市長さんがお話のあった地域ビジョンをどうするかという関係の話である。佐藤市長さんから、私の説明について「市町村が持っているそれぞれの構想を県のビジョンの中に取り入れる、そういった内容であれば」というお話をいただいたが、私が申し上げたのはそういうことではなくて、要するに今回は「地域ビジョン編」というものを作らないということである。以前は、長期総合計画の中で地域ビジョンというものを作って、そこでお示しをした各地域の将来のあり方に則して、地域づくりが進められるように各市町村を導いたということだったが、今回はそういう形ではなく、各市町村の主体性を発揮していただくということから、各市町村で今持っている、あるいはこれから作成する構想に則って地域づくりを進めるといえるときに、県の立場でできる限り支援をしていくという考え方に立って、県としては地域ビジョンは作らないという考え方である。

【梅原委員（佐藤角田市長代理）】

- その考えで結構だ。

【星宮会長】

- 個々のことに応酬すると時間がかかってしまうので、なるべく御意見をいただくようにしたいと思う。

【畑山委員】

- 主として、福祉の視点から少し意見を述べさせていただきたいと思う。
- 前回の調査の報告書の中にも、県民の重視度と満足度との乖離度が最も大きいものとして、「子どもを安心して産み育てることができる環境づくり」の問題があった。先ほどの企画部長の説明の中にも、その視点を入れながらビジョンを作成したという説明があったことは事実である。でも、これを読んでみると、その視点が全体の中で埋没してしまっていて、わずかに項目としてはあるのだが、大変目立たなくなってしまう気がする。もう少し宮城県らしい、特別な対策というものが目立つような形の企画を打ち出していきたいという気がする。それはやはり、子どもを育てながら働いている母親たちが孤立しているような事態がかなりあって、特に宮城県の周辺部に行くと、そのような事態が非常に多くなっている。子供の数も少なくなっている、周りに子供もいない、支援する人たちも少ないという状況である。そういう中で、虐待も起きやすい、宮城県の虐待数の増加が止まらないという実態がある。そういうものに対してどのような手を打つかということだが、36ページの個別ビジョン19のところを見る限りでは、特別な施策が見えてこない。例えば、これは国の施策がなければたいへん難しいのかもしれない。でも父親の子育て参加、子育てに参加したい人たちがいても、企業がそれを許さないような環境がかなりあるということを知っている。そういった企業の援助をいただきたい。富県という視点でいくと、あるいはこれと矛盾することが起きてしまうかもしれない。あまり短期的な経済効率だけを求めると、子育ての問題を切り捨てることになりかねない。ですから、できるだけ長期的な視野に立って、次世代を育成するという視点での施策を忘れないでいただきたい。父親の子育て参加の促進、それを宮城県がどのように支援していくのか、その視点が見えるようになってほしいと思う。そういうものを是非組み込んでいただき

たいということが1つ。

- それからもう1つ、福祉の視点では、今年の3月に既に「みやぎ保健医療福祉プラン」を出した。その中で、いくつかの具体的な策を述べているわけだが、その中で埋没しがちなものについてお話をすると、例えば今までであれば育児支援、高齢者支援、障害者支援という、対象がそれぞれ別個のものに対して、それぞれのプランで動いていた。それを支援する部署も、支援するいわゆるセンター的な施設もバラバラだった。しかし、様々な人たちが連携して参画する地域づくりを目指して福祉の拠点を整備し、包括的に支援していくという視点、それをみやぎ保健医療福祉プランの中では述べていた。その姿勢を忘れずにこの中に組み込んでいただきたいと思う。

[小金澤副会長]

- 今出されているように、個別のことを取り上げていくとたくさんいろいろなことがあるが、もっと大きなことでいくつかお聞きしたい。
- この県の構想を見ていると、最初の出発点が5つの大所のところでやっている10年後のみやぎということで5つのことが出されて、その5つのことをベースに、今度は3つの大きな視点というテーマがあって、そこからそれぞれ1つ目は5つ、2つ目は5つ、3つ目が4つと分かれて、さらにそれが細分化されていくという構成を取っているが、一番最初の5つの“少子高齢化の進展”“グローバル化”“限りある資源”“地域間格差”“変わる国のかたち・地方のかたち”という内容が、“自律的成長～”“生涯を安心して～”“人と自然が調和した～”の3つのものにどうやってそこから絡んで出てきたのかがはっきり言って見えない。さっき新妻さんがおっしゃったように、問題点とその解決する課題という組み方を立てると、本来なら最初の5つの視点は問題点の整理のはずなのに、いきなり課題が出されている。いわゆる解決策が示されているというお話があったけれども、それと同じように、この問題点のところをもう少しリアルに分析していかないと、5つのことから急に3つのことが出てくるそのプロセスがよく見えない。これはやはり、今宮城県が抱えている問題というのは5つあって、こういう問題があるということは、問題点である以上、宮城が抱えている問題なのだから、宮城らしさとか具体的な宮城の地域特性を踏まえた問題点というのがたくさんあるはずなのに、それをもっとえぐる形でリアルに示さないと、なぜ3つの大きな施策の柱が出てくるのかが判らない。3つ以降のものになると、さらに細分化されて33まで分かれているので、これを見ているとたしかに御指摘のとおり縦割りのように見えてしまうし、この33を具体化して行動する時には、1から33まで担当部局が想定されて動くということになると、結局は縦割り行政そのものを行っているという話にしかならない。その辺の繋がりから見て、私はまず第1点は最初の5つの問題点から3つの課題が出るまでのプロセスを、もう少し宮城的な特徴を踏まえて整理していただいて、その中から宮城県らしい課題を出していただきたいというのが第1点。
- 第2点目は、今申し上げた33までの課題が揃っていて、それをやるのは担当部局なり、場合によっては関連する市町村だという話になってしまうと、結局は具体的に何をやるのかが見えない。つまり、3つのことからそれぞれ5つ、5つ、4つに分けて、それをさらに33まで分けてきたことは、これらの事柄は実は相互に関連している事柄だからこういうふうに分けて、結果的にこういう33の課題があるということなのかと思うが、実際に実行する場合には、これを組み合わせる実行しなければならぬことがたくさんある。例えば農業関係で言えば、儲かる農業の話と地産地消の問題というのは一緒にやらないと話にならないし、また環境保全のほうの関係とも組んでくる話だと思うし、それが地域の教育等の関係も出てくることだと思うので、1から33までの項目というのは、通常の行政部局で仕事をするタイトルとしては、これはこれでいいと思うし、着実にやっていただきたい。しかし、同時にこれらを乗り越えて、テーマ的にいくつかの課題を複合させてプロジェクトを作って仕事をしていかないと、実際にはできていかない。例えば、農業と地産地消と教育と環境保全とを全部やった1つのチームがあって、福祉と地域コミュニティとサービス産業とを組み合わせたプロジェクトを作って、そういういくつかの実践するためのプロジェクトをいくつか出していただく。先ほど話が出たように、地域ビジョンを作らないという理由もよく判る。県が地域プランをたてて、こうやるべきだというよりは、自治体がもっと参加させるんだという他の要素の発想が出ていると思うが、それは私もいいと考えているが、そのためには何をやるのかが判ら

ないので、地域の課題だけを拡幅していったのでは県政とリンクしていかないはず。リンクさせるためには、今言ったようなプロジェクトテーマを作って、これを例えば県北の大崎では、農水と消費と福祉と教育を行うプロジェクトのモデル地域にするとか、産業の関連とかサービス業の場合は気仙沼でやるとか、県南では観光をやるとか、そういうものに手を挙げてもらって、パイロットモデルのように先行事例を作っていくようなことを同時にさせていかないと、このままだと結局は部局進行になってしまうので、それぞれを組み合わせ、それを県民に対して具体的にこうやっているんだ、例えば福祉や食産業や儲かる農業や流通や食の安全安心などを組み合わせたプロジェクトは今、県北でやっていますよ、このモデルを5年くらいやって、それを県のいろいろな地域に普及していきますよという形で、それぞれ具体に見えていくような形での実践プログラムのイメージを出していただきたいというのが2番目。

- ・ 3番目は、全体のスローガンとして、私は将来の持続可能性のようなものが問われてくると思うが、持続可能な社会をこれから作っていくことが国の施策にも展開されてきているわけだが、持続可能な社会というのは、次の世代にどうするかということを使うだけではなくて、今抱えている問題があるから、今のままだと持続可能にならないから、その課題を明らかにしてそれを乗り越えていこうというのが持続可能な社会づくりである。まさに今、宮城県がやっていることだと思うが、今抱えている問題点は、何もやらなければ少子高齢化が間違いなく進んで、宮城県の財政収入も少なくなるし、人口も少なくなるし、農村部の高齢化も進んで地域間格差も激しくなってしまう、だからこのままでは駄目だからどうするかというビジョンなのだから、そういう意味では持続可能性というものをこれからどうするかということをもう少しスローガンとして掲げていただければと思う。

[星宮会長]

- ・ 県のほうでもお答えしたい点があると思うが、いろいろ意見を伺った後で、最後にまとめて答えてもらいたい。

[榎原委員]

- ・ 就業や雇用問題に限定して少し発言をさせていただきたいと思う。
- ・ 雇用問題、就業問題の現状認識についてであるが、先ほど話題になった県民満足度調査における「雇用の安定と勤労者福祉の充実」は、各4回の調査においていずれも重視度と満足度のかい離度が高い。とりわけ、平成17年度実施の第5回調査においては30.2%ということで、子育て支援に次いで高くなっている。この資料にも書いてあるとおり、昨今、確かに失業率は改善し、雇用状況はある面では向上しているということは客観的な事実であると思うが、東北それから宮城の状況は依然として厳しいことには変わりないのではないかと考えている。ご覧のとおり、総務省が発表した1月から3月の都道府県別の完全失業率は、山形県と福島県が4%台に対して、宮城県は5%台になっている。5%台の都道府県は5つの都道府県、6%台が4県しかないことから、結果的に宮城県が下位に甘んじているということは客観的な事実だと思う。確かに雇用情勢はよくなっているが、正規から非正規へのいわば転化というか、雇用転換が中心だし、若年者・高齢者の雇用情勢は依然として厳しいという実態がある。私も連合宮城においては、この間、とりわけ高校生の就職問題について取り組んできた。就職内定率は、一番新しい数字で95.9%という数字があるわけだが、この高校生の就職内定率を見た時に、実は他県からの応募が非常に多くて、宮城県の高校生が宮城県に就職できないという側面もあるので、そういった点を含めて取り組んでいく必要があるものと考えている。
- ・ それから、雇用問題については「多様な就業機会や就業環境の創出」として明記されているが、私は内容よりも、現行の体制・仕組みに課題があると考えている。別の場所で議論になったと認識しているが、どちらかと言えば国が主で、県と地方自治体が従という形になっている。これは、主に県というよりは国のほうに問題があるわけだが、特にこの問題に関係する同じような機関が、実は数多く存在している。それについては、補助金が付いて、お金が付いて、そして人が付いてくる。正に縦割りであった。雇用対策というのは、重要だと思う。先日、政府の地域再生本部は地域の雇用問題を目的にして、今年度中に地方自治体の窓口を一本化して雇用対策を効果的に進めるというマスコミ報道があった。現時点で細部は承知していないが、正に各市町村にまたがる雇用対策の予

算を自治体に一括交付の方向で変更するという事なので、これは私どもとしても歓迎したい。今こそ行政機関の枠組みを超えて、県主体の、地域主体の効率的・効果的な雇用対策の一元化を行うべきだと思うし、その前提に立つならば、労働局とも連携をとって是非進めていただきたい。

- それから、本日は仙台市の梅原市長がいらないが、私どもとしても、雇用対策に取り組む時に、仙台市が政令市に移行したことにより、率直に申し上げて宮城県と仙台市の関わりは非常に難しい側面があると、我々連合宮城としては問題意識を持っている。現在も、県と仙台市は連携をとって取り組んでいただいているわけだが、やはり効率的・効果的な雇用対策を行うためにも、とりわけ宮城県と仙台市の連携を是非強化していただきたいと思う。
- 最後に、個別的なものについて1点だけお話をさせていただきたい。基本的に雇用問題に取り組む時に、産学官ということで私たちを中心にといいと思っているが、それに地域から金融機関と、豊富な人的ネットワークを持つ労働組合が参加した、産学官プラス“金”“労”といった新たなシステム・仕組みを作って、正に全体的な取組を行っていただきたい。また、現在取り組んでいただいている若年者対策としてのジョブカフェの体制の強化はもちろんだが、雇用職業訓練施設の連携強化、そしてインターンシップ制度の一層の推進、場合によってはニート対策として中学校段階からいろいろな職場体験をやっていくということも必要ではないかと思っている。

[羽田委員]

- いろいろな意見をお聞きして、10年後のビジョンということも頭の中で考えてもそれが描けないとまずい。一体、宮城県がどのような状態になっているのかということを描けるようなプレゼンを是非やってもらいたい。見ていても個々にはたくさんやっているが、総花的であって、何が重点的なのかが判らない要素がある。
- 私は、宮城県で作ったビジョンであればこの程度でよいのではないかと思っていたのだが、これを見ていて、3ページの第2節「グローバル化・情報化の進展」の「これまでのみやぎ」を見てみると、輸出額は平成7年の965億円に対し、平成17年は3,468億円へと3.6倍に増加している。また、輸入のほうも2.2倍になっているが、そう考えると宮城県も結構やっているじゃないかという感じを受けた。したがって、ここまでやってきた中で、今の問題点は何かという現状分析をやる就非常によくなると思う。現状分析というのは、私たちのような企業家の面から言うと、とにかく財源である。だから、財源が今どうなっていて、10年後に財源はこのくらいになっているから、このくらいのサービスができるというような、ビジョンを描くからには、これだけのビジョンをやるためにはこれだけの財源が必要ですよという数字が出てくると思う。その辺のところを大雑把でもいいので示してほしい。富県戦略を進めていって、それを10年後に実現することによってこのような宮城県になるんだというような夢を与えることが大事である。ちょっと数が多いと思うが、それぞれのアイテムに対して重点的にやられるとよくなっていくのではないかという感じは持っている。例えば、この中でも3年後の数値目標を示した上でやっていきますと書いているが、私も3年くらいがちょうどいいと思っている。10年になると、今から10年前となると平成6年くらいで、丁度前々回策定したのは平成5年くらいだと思うが、世の中は全然変わってしまう。したがって、夢を持つということはいいことだが、それを年次ごとにどう実現していくかということが一番重要だと思う。だから、細かく書くということもいいが、そうではなくて、大雑把にぱっと書いてしまって、目をつぶると10年後の宮城県はこのような姿になっているんだなというものを示して、後は具体的に3年計画なり年度計画になると思うが、その中でこのようにもっていくということでまとめていただけたらもっとよくなるのではないかという気がする。全体的な話は、縦割りだったり横割りだったりということがあるかもしれないが、抽象的で、これを評価するという事はできないと思う。目をつぶった時に、こういう形になるということを描けるようになってくるといいと思う。

[師委員]

- 折角マイクが隣まで来たので、一言だけ追加しておきたい。
- ただいま御意見があったように、このビジョンは大変よく書かれていると思うし、これを今いろいろ御意見があったように縦横から見たり、さらに細部にわたって検討するという事は、また先の問題だろうということになるので、各章ごとにあるいは各部ごとにもっと正確なビジョンという

ことについてもう少し御議論いただくことが必要だと思う。ただ、一応全体的なものについては、大変結構にできているのだろうと思う。

- ただ一つ問題なのは、今、県においては財政優先構造改革路線なので、どうしても財政的な面が非常に強く表面に出ているような気がする。その中で、例えば「儲かる農林水産業への転換」というような、あまりにもはっきりと“儲かる”という言葉を使っているが、ビジョンとしてはあまりいい言葉ではないような気がする。やはりもう少し風格のある言葉で表現されてもよろしいのではないか。
- もう一つの問題は、次世代ということについての問題が出てくるが、これはあくまでも少子化の問題と結びつくということであるが、子供を産むのに次世代のことを考えながら産む人はいない。かわいい子供だから産む。生まれた子供だからかわいい、自分の子供ほどかわいいものは無い、これが本当の心情であって、それが広がってくれば必ず子供を産んでくれるはずだ。だから今の少子化対策というのは、あまりにも考えすぎてしまっていること自体が、少子化を進めてしまっているのだろうと私は思っている。ひとつ、本当に自然に子供というものを考えると、少子化などは問題ではなくなるのだろうと考えている。
- それから、ただいまマイクをいただいたのは、先ほど角田市の佐藤市長さんから医療の問題が出ましたので申し上げたいのだが、宮城県の場合は、非常に大きなお金を宮城県こども病院に出していただいている。そういう意味では、医療に関心を高めていただいている県なので、これは大変感謝をしているところである。ただ問題は、やはりがんについてであるが、がんは人類最大の問題であり、世界中の問題でもあると思うが、ただいまおっしゃっていただいた500億円の機械1台でどうにかなる問題でもないのだから、これは広く考えて、今後対策をとっていかなければならない。
- この前、医療制度改正の改革法案が国会を通ったが、さらに400くらいの政省令ができないと進まないというように、医療問題というのは難しい複雑な問題を抱えているので、そのうちにだんだんと解決方法が生まれてくるのだろうと私も思っている。それと一緒に、県の医療制度のほうも充分に考えさせていただきたいと思う。村井知事さん、よろしくお願いします。

【佐々木委員】

- 今、子育て支援という話が出たが、私の仲間というか会員の中には、働きながら子育てをしている会員がたくさんいる。36ページの「子どもを生み育てやすい環境づくり」の中の県としての取組の方向の中で、労働者等に対する育児休業取得の促進や職場復帰しやすい環境の整備、企業における仕事と子育ての両立支援対策の促進とあるが、是非これは県と企業に促進していただきたいと思っている。その中でも、就労時間の短縮ということについて考えてほしい。私の知っている人たちでも随分いるのだが、両親とも働いていて、県北と県南に仕事に行くために、真ん中で生活をしている。両親は、朝早く仕事に出かけていくため、子供がその後起きてきて、一人でご飯を食べて学校に出て行く。子供は帰ってから児童館などにも行っているが、家に帰っても、お父さんお母さんが帰ってくるまで市販のものを食べたり、テレビゲームをしたりテレビを見たりして夜遅くまで待っている。そういう状況が最近どんどん増えてきている。是非子育て中は、せめて5時には帰れるように、企業には努力をしてほしい。文部科学省でも「早寝早起き朝ごはん」と言っているが、本来は親が家庭生活の中でいろいろ努力をして、子育てをしながら初めて親になっていく。ところが、そういうことがなくて、預かり保育がどんどん進んでいく。それはとっても助かることではあるが、それと同時に、働き方の見直しということで、子育て中は就労時間を何とか朝晩をフレックスタイム制にしてもらえとか、そういうことを推進してほしいと思う。
- それから、これは個人的というか、大変細かいことかもしれないが、宮城県中央児童館という施設があるが、かつては1億円をかけて「こどもの丘」ということで作られた遊戯館がある。そこでは、子育て支援の人たちから、北から南からの子供たちが交わる場所であり、学びの場所であり、支援の人たちが勉強する施設でもあったのだが、今その耐震工事も予算がつかないということで使えない状況になっている。中央児童館は、かつては宮城県が全国に誇る大型の児童館だった。それで全国からいろいろな人が見学に訪れるくらい素晴らしいところだった。それが耐震工事も予算がつかないほどの宮城県ということになると、私たちのように健全育成を推進している者からすると本当に残念だなあと思っているところなので、是非健全育成のほうにも力を入れていただきたい

と思っている。

[幕田委員（三瓶専務理事代理）]

- ・ 6 ページに、「地域間格差と地域生活の危機」という項目がある。その中で、今後10年間の主要な課題のトップに「東北地方の拠点としての機能を高めていく必要がある」と記載されている。これは大変結構なことだと思うが、今いろいろな事業があるが、やはり県境を越えた事業というのはたくさんあるし、さらにこれから道州制の議論というものも出てくる。そういう意味で、宮城県の東北での役割というのはますます高まっていくだろうと思う。そういう意味ではこの記載は非常によろしいのだが、もう1つ、1ページ目にこの点を宮城県のスタンスということで若干触れてもらえるといいのかなと思っている。下のほうに推進方策という部分があり、その一番下のところにも若干記載されているが、もう少しインパクトのある形で記載していただければと思う。

[佐藤（豊）委員]

- ・ 将来の宮城県ということで、このビジョンが大枠でこのようにまとまったということはよいのではないかと思う。そういう中で、新生みやぎということになると、松島でございます。宮城県の顔なので、松島の岩のような松の木が毎日枯れているわけである。このままにしておくと、金華山のような裸の山になってしまうのではないかと思っている。このように医学が進んだ時代に、なぜあの虫を殺せないのかと思っている。これは、林業試験場の予算がもう少しあれば、研究費がもっとあればいいのではないかと感じている。
- ・ 先ほど、子育ての話があったが、私は環境問題と組み合わせて考えている。毎日のごみ問題で騒いでいるわけだが、最終処分場なので環境公社には既に何百億というものが眠っている。ああいうものを掘り起こしながら、さらに出てくるごみを一緒に何かで溶かして、それを舗装や鉄筋コンクリートの構造材のようなものを作って、その時に出る熱量で電気を発電し、その発電した電気を東北電力に売りながら、その売った代金で、例えば小学校6年生に上がるまでの医療費をただにする。そういった、対応に困っていたものが結果的に宝になるのではないかと常に思っている。
- ・ もっと発言したいことはあったのが、時間なのでこの辺で終わりにさせていただく。

[星宮会長]

そろそろ予定の時間になりましたので、この将来ビジョン骨子案についての審議はこのあたりで締めさせていただきたいと思えます。

なお、今日、ご発言されたいと思っても、時間の関係で発言できなかった方がたくさんいらっしゃると思えますし、複数回発言したかったという方も多分いらっしゃると思えます。そういう意味では、是非言い足りなかったこと、補足したかったこと、あるいは質問したいこと、多分おありだと思いますので、そういう方は是非文書で30日の水曜日までに事務局にお出しいただくようお願いしたいと思います。

それでは村井知事のほうから、今日の審議に関する感想などのお話があれば、最後をお願いしたいと思います。

[村井知事]

皆さん、本当にいろいろな御意見、貴重な御意見をありがとうございました。お伺いをしていて、そのとおりだと思うことばかりでございました。

実は、先ほどお話しましたが、この骨子に至るまで、まず庁内の若手職員がそれぞれ熱心に議論いたしましていろいろな案を出してまいりました。それを取りまとめまして、その後民間の方たちから御意見を伺うなどして、それを取りまとめたものがこのビジョン案ということであります。私もこれを読ませていただいて、企画部のほうにお話をしたのは、この中で「宮城」という文字や固有名詞を消して数字を消せば、47都道府県どこのビジョンなのか多分判らないでしょうということでもあります。これは私の、宮城県政の将来ビジョンですが、まだこの中には私の個性が全く反映されておられません。したがって、今日お聞きした意見、そしてこれからタウンミーティングをやりましますので、御意見を聞いて、そこに私の個性を入れた中間案を作って、皆様方に御提示したいと考えております。したがって、ここには基本理念も書いておられません。理念も無いのに、よく

これだけ作れたなと皆さん関心されたと思います。私の考え方は、「富県みやぎ」と言っていますが、富県みやぎを通じて、その後に素晴らしい福祉や医療や環境や教育や社会資本を整備しようということで、そういった形で、そういった理念を掲げて県政運営をしておりますので、具体的に県民の皆さんにアピールできるようなビジョンを作りたいと考えております。

この宮城県を、10年後に経済規模をどのくらいにしたいのかというものを、まずしっかりとした数値目標として掲げたいと思っております。そういったものが出てきますと、当然のことではありますが、その際の県民の所得がどのくらいになるのか、あるいはそれによって財政状況がどうなっているのか、また財源がどのようになっているのかということが大掴みで見えてくると思っておりますので、その後にある程度重点を絞ってこういった環境や福祉や医療や教育や社会資本を整備していくというようなことを大掴みで示せればと思っております。どうしてもこの手の計画を作りますと、やはり問題点が出てくるんですね。大きな問題点としては、まずどうしても総花的になるということです。ここにおられます方々もいろいろな方がおられますので、皆さん納得してもらうように書こうとすれば全方面を網羅しなければならないので、どうしても総花的になってしまうという問題点があります。

それから予算の問題がありますが、これをやろうとすると何にでも予算が絡むわけですが、今の宮城県はスッカランであります。今後4年間で2,300億円ほど財源が不足すると言われてい中でこのビジョンを作っているわけですから、本当に何でもかんでもできるのかと言われるとなかなか出来ない。したがって、どうしても言葉でごまかしがちになってしまうという問題があります。

それから、私が知事になった時には、このビジョンの下のそれぞれの計画が既に出来上がっていたということです。したがって、本来であれば、このビジョンを作った後に、その下に計画を作って皆さんにお示しするというのが一番理想なのですが、既に計画が出来てそれが動きだしております。4年・5年の計画が出来ておりましたので、その計画を全て方向転換するのも出来ないということもあります。したがって、その計画を見据えながら、多少は方向転換をしながらビジョンをつくっていかなければならない。そういう問題点を抱えながらビジョンを作っていかなければならないということです。なかなかそうは言いますが、皆さんが「なるほどな」ということにはならないと思いますけれども、それでも、少なくとも村井が知事をやっている、宮城県の将来ビジョンはこういった個性が出ているなといったものを作りたいと思っております。そういった意味で、今日いただいた意見というのはそれぞれ非常に私の個性が出しやすいようなものばかりでしたので、そういったことを十分に勘案しながら、次の中間案までには、ガラリと変わるような形になるかもしれないと思いますが、そういったものを出したいと思っておりますので、また次回には是非とも皆さんに御出席をいただきまして、是非貴重な御意見を賜ることができればと考えております。今日、このような形でお集まりいただきましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

【星宮会長】

知事さん、どうもありがとうございました。

先ほども申し上げましたように、さらに御意見をいただく場合には、30日までに事務局までお願いしたいと思います。これらの意見の取扱いや、骨子案への具体的な反映方法につきましては、私に御一任いただき、事務局と調整して、将来ビジョン骨子として確定してまいりたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

※ 異議なしの声

【星宮会長】

ありがとうございました。それではそのようにさせていただきます。

今、知事さんから大変心強い発言をいただきましたし、事務局の方と一緒にまた中間案策定に向けた作業に入っていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

(2) その他

事務局（企画部政策課長）から、資料4にもとづき9月上旬に県内3箇所で開催するタウンミーティ

ングを開催する旨をお知らせするとともに、資料5にもとづき第3回審議会の開催日程（11月10日予定）を含めて、今後のスケジュールについて説明

4 閉 会